

第 9 号

昭和62年7月11日

静岡県立磐田南高等学校同窓会

印刷 総合印刷 (株) 大進堂



校長 長藤 利夫

緑陰の快い候となりました。卒業五十周年記念樹も、校内のあちこちで大きく成長しております。今年も校地の東端、只来坂からすぐ見上げる所に、^{たけのこ} 榎が植樹され、元気に新緑の葉を拡げています。

全校生徒が燃えに燃えたるは



同窓会長 高橋 達也

会員の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。同窓会もその総数一万六千余、母校創立65年の歴史を数えるに至りましたが、本年度は特に各支部組織の見直しと強化を重点に、本部役員相図って推進して参りたいと思います。

ぐま祭も無事に終り、校内は一転して落着いた勉学の雰囲気包まれています。諸先輩の作られた大学入学成績を、一人でも二人でも上まわる結果を残したいと、教師も生徒も一所懸命にとり組んでおります。優秀な素質を持った者ばかりですから、これからの努力によって、きっとよい結果をもたらすものと期待しております。

全国高校総体(北海道)は、今年陸上部の二種目のみの出場、やや寂しいのですが、

母校も施設面では時代と共に近代化され、本年は待望の弓道場も完成、先輩諸兄には懐しい旧剣道場も有効利用を考えて近々、新改築されるものと思えます。これも後輩諸君の一層の学習の場としての衣替え事業としてご理解を戴きたいと存じます。また、大変ご協力を賜りました尾崎教育振興基金につきましては先生ご寄贈の土地売上代金に加え、同窓諸兄よりの一千五百万円余の賛助金など合計四千六百四〇万円が積みたてら

ぜびがんばってきてほしいと祈っております。野球部は近年にないまとまったチームとなり、活躍を期待しています。第二体育館の東側に弓道場が完成されました。設備の整った大変に立派なものです。旧雨天体操場も老朽化し、改築を迫られております。定時制のための多目的ホール、吹奏楽部の練習場などができれば幸いと考えております。

同窓会の皆様方の一層の御助力をお願い申し上げます。

れ、既に生徒・教職員の為にその「果実」は有効に給付されつつあります。心より感謝を申し上げます。更に政界におきましては塩谷一夫衆議院議員、竹山裕参議院議員、神谷明磐田市長を始め、本年春の静岡県議選には伊藤武本校後援会長を筆頭に六人の同窓県議が誕生いたしました。その活躍を大いに期待申し上げます。

終りになりましたが会員皆様のご多幸をお祈りして、ご挨拶と致します。



思い出

第21回卒業生と私

谷 誠一

恩師（昭和14〜昭和22）

同窓会の係から、「今年第二十一回卒業生の卒業四十周年にあたる。当時のクラス担任の一人として何か書くように」とのお話があった。

第二十一回卒業生は、十七年、見付中学入学。その前年太平洋戦争は始まっていた。食糧増産のため農村へ勤労奉仕作業。学徒動員で一年半工場へ。学校復帰。卒業。多難な中学生生活であった。

卒業後、社会状況が落ちついた頃から、三年に一回、定期的に同窓会が開催された。当時の担任であった故藤田平三先生、故斎藤良一先生、小生ら毎回そろって列席させていただいた。以来何回も重ねね、昨年の同窓会では、今迄話題にのぼらなかった「停年一

「還暦」の話が出た。私これまで毎回すばらしい歓待を受けながらも、お役にたつことは何もなかった。仏教の「顔施」は「黙って座っているだけで、その姿はそこにいる人々に何もかを施す」ということである。「施す」とは「奉仕」を意味するという。私はあと十三年で九十才になる。「顔施」の域に達すなど及ぶべきもないことだ。しかし私の九十才の頃の同窓会に元氣な姿で出席でき、座っている爺さんの中に、何か良いもののかけらでも感じとっていただけは幸いである。

お元気で。マイ・オールド・ボーイズ。

大堂 宏

恩師（昭和38〜昭和46）

熊本県立済々黌高校に九年間勤めた後、磐田南高校へ転任してきたのは、昭和三十八年四月のことだった。ふとした縁で、当時の伊藤新七郎校長と知り合って招聘を受け、地図で磐田台地という所をやっと探して当てたときのことを今思い出している。

当時、翌年の東京オリンピックを控えて、新幹線の工事が着々と進み、それに合わせるかのようになり、磐田駅前通りの区画整理が行なわれていた。磐南は古い木造校舎だったが、今の理科室の一部だけはでき上っていた。

昭和四十六年に静高に移るまでの八年間の磐南の思い出は尽きない。磐南もまた高度成長時代であった。夜間の他に昼間定時制が併設され、新体育館、新校舎と次々に整備され、数年前訪れたときは、昔の面影はほとんど残っていないなかった。

施設・設備だけではない。

県下のトップを切って、理数科が設けられ、伝統に華を添えるかのようになり、文武両面の活躍が目ましく、天下に磐南ありと、人をして語らしめるところがあった。それは偏に遠州磐田の地の好学の風が生んだ生徒たちの勤勉の賜物である。そして何よりも嬉しいのは、磐南からその後コンスタントに超一流大学に合格していることである。磐南の教壇で共に英語の勉強が

できたことを私は誇りにしている。磐南の益々の発展を祈るや切。



ドカ中の群像

柴田 岳夫

（見中11回）

五十年といえば半世紀。我々十一回生が、見付中学を卒業して五十年になるという。全く信じられぬ年月である。

昭和十二年三月、春とはいえ、戦雲暗き国家非常時の態勢の中に卒業し、進学に社会に出ていったが、その年七月には支那事変、八月には第二

次上海事変、戦火は益々拡大して、十二月には早くも南京攻略戦、国民精神総動員の大号令が下った年である。巷には出征兵士を送る「露宮の歌」や「愛国行進曲」の歌声が流れていたが、やがて数年後には我々が、戦場へ送られる身となった。

あれから半世紀。我々一四六名の同窓生は、今や半減してしまった。戦死した者と、戦後の混乱の中に悪戦苦闘して死んだ者など、我々の級友や我々同世代の者に、犠牲者は余りにも多かった。

昨年四月五日、卒業五十年を記念して、恒例の植樹（櫻）と共に、その日に、亡き恩師二名と亡き六九名の級友の慰霊祭を行なった。それだけでは亡くなった人たちに申し訳ないと思ひ、見中第十一回卒業生、五十年の人生記録として『ドカ中の群像』を発売し、亡き恩師、級友の霊に捧げ、鎮魂の書とした。

この本には、健在の恩師、級友はもちろん遺族の皆様も書いて下さり、一五〇篇が集まって、文字通り血と汗と涙

の結晶の本となった。幸いに先輩、後輩の方々にも好評を得て有難く思っている。

私たちの青春

—戦いとともに—

柏原博一

(見中20回)

私たちが見中第二十回生は、太平洋戦争とともに過ごした中学校生活であった。

昭和十六年四月入学。その年の十二月八日、勤労奉仕のため三川村へ行く早朝に、開戦のニュースを聞いた。

以後は食糧増産のために、ますます勤労奉仕の日数が増し、やがて「敵性語廃止」の命により、英語が授業から姿を消した。

そして、昭和十九年七月、遂に学徒動員の命令が下り、全員が名古屋市外・西枇杷島町にある「三菱重工業・名古屋機械製作所」へ赴き、十二時間労働・昼夜二交代制で、飛行機のエンジンに取り付ける、「排気ガスタージン」の生産に携わることになった。名古屋の夏は焼けるように

暑く、また、冬の深夜の冷え込みは厳しく、油に濡れた手指から体の芯までを凍らせた。労働はきつくと、食糧は乏しかったので、けが人・病人が続出した。

そのうえ、昭和十九年末からは、B29による空襲も始まり、名古屋は連日のように、数百機による集中爆撃にさらされ、その中を逃げ回った。

昭和二十年三月、一年繰り上げの卒業式が工場の食堂で行われ、進学・就職組が去ったあと三十人程が残留した。

私もその一人であったが、やっと磐田の土を踏むことが



できたのは、八月一日の朝、六時であった。西枇杷島駅から二十二時間の旅であった。

山口恵子

(南高11回)

この度、私共十一回卒の女子に、何か思いを書きよう依頼があり、引き受け手のないままに、私が拙い文を書く羽目になり、仲良しの友に、「高校時代の思い出は？」と尋ねても、「思い出なんて何もないわ」という返事が多く、当時は真面目に受験勉強に明け暮れた女子が多かった事を再確認しました。十一回は六クラスで、一クラスに女子は八、九名、Aコース(文系)、C

コース(理系)、Bコース(文理両系)と、入学時点で三コースに二クラスずつ分かれ、三年間ほとんど同じメンバーで授業を受け、ホームルームは又別で三年間同じクラスで過しましたが、女子は女子だけで固まっていた様に思います。「四当五落」、五時間睡眠をとった人は受験で失敗し、四時間位の睡眠で頑張った人だけが希望の大学に合格できる

等と言われ、中間、期末が終るとスバル(中泉にあった映画館)へ友達と洋画を観に行く位が唯一の楽しみでした。今の女子高生が、制服を脱げば社会人と見紛う変身をするのに比べ、私共が入学した年にできた一本線の制服で、どこへでも出かけたもので、同じ制服を着ていても、明るく伸び伸び高校生活を楽しんでる後輩を見かけると、二、三年前との違いを痛感します。

女子の同窓生もかなりの数になると思います。皆様にご協力頂いて、ぜひ女子部を発足させたいですね。

古山晴海

(南高20回)

「シユメール、アッカド、古パピロニア、ヒッタイト、ミタンニ、カッシート」

教室一杯に、そのリズムカナルな声が響き渡る。恩師、世界の安藤俊作先生の名調子の語り方は、二十数年を経た今も昨日のことに耳元に残っている。

私共、第二十回生が入学したのは、東海道新幹線が開通

し、東京オリンピックが華々しく開催された翌年の春四月のことであった。見付中学校当時から伝統を受け継ぐ木造校舎は、閑静で清潔な落ち着きを備え、幾多の先輩方が築き上げられた防風堤には、見事な桜並木が将に爛漫たる春の風情をみせていた。数日後、その防風堤で「霊峰富士に朝日照りそひ」で始まるあのすばらしい校歌を、応援団長の「覇気あるか」の励ましの中、何度となく歌うことになった。

テニス部へ入部。コートは正門と水泳記念館の間であった。春と夏に行われた水泳記念館と行泉寺での合宿。出る汗も無くなって、皮膚に塩の結晶だけが残った午前中の三時間乱打。期末試験を明日に控えた駿府公園コートにおける県大会。お世話になった顧問の児玉惇先生。生徒指導の鈴木源市先生。青春を謳歌した三年間であった。

磐田南高校の益々の発展を願う今日この頃である。

年次活動

●見中3回

開催日 昭和61年8月16日
 場所 開 筵 楼
 出席人員 17 名

毎年恒例による三信会の開催である。約一年振りに旧交を新にした次第である。幹事より尾崎教育基金の状況、会員の動静等につき説明、一同の了解を得た。

尚現在、会員のアルバム作製（夫婦共）の計画実行中で、約半分程完成して、この夏には第二部を配布の予定である。又、在京三信会は東京で開催。七名が参加した。62年度は5月16日、伊東市山岸園で在京三信会を、夏総会前後に磐田で恒例の三信会総会を開催する予定である。（小池完次）

●見中5回

開催日 昭和63年2月下旬
 (予定)

場所 開筵楼の予定。
 出席人員 15〜20名程度。

二年毎に一度会合を開き、元気で幸せに生活していることを喜び合い、祝杯を傾けて歓談できる気楽なものです。

同窓会での主な出来事があればこの場を利用してお知らせするし、又この二年間に不幸にして黄泉路へ旅立たれた友の冥福をお祈りします。

(内藤弥夫)

●見中10回

開催日 昭和62年4月12・13日
 場所 伊豆長岡温泉ホテル天城

出席人員 20 名
 見中10回生懇親会が伊豆長岡で行なわれた。席上、五年前学級担任だった武末知一先生の奥様が61年11月2日に亡くなられ、続いて11月9日先生が亡くなられたので香料を送ったら、長女悠木子様より香典返しとして5万円送ってこられたことを報告し、使途を相談したところ、尾崎教育振興基金に寄付することがよいとの結論になった。

5月6日、年次委員と会計係とで学校を尋ね、主旨を話



し、同窓会を通して尾崎教育振興基金に寄付した。尾崎先生の信頼が厚く、生徒に慕われ、見中魂を育てて下さった武末知一先生が、いつまでも母校の発展と同窓生の活躍を地下で祈って下さることを思う。
 (鈴木芳郎)

●見中11回

開催日 昭和61年4月5日
 場所 母校校庭、行泉寺
 出席人員 遺族24名・来賓8名・同級生37名

見中卒業50周年を記念して行う恒例の植樹行事当番年次となり、種々諮った上母校に学ぶ後輩が常に高さを仰いで

精励してくれることを願い、「けやき」を選び昨年4月5日、同級生37名が出席し、長藤校長先生等の臨席を頂き旧正門を入った北側へ記念植樹をした。

その後行泉寺に於て尾崎校長先生以下恩師22名、同級生69名の慰霊祭を、恩師5名・同級生19名のご遺族と来賓8名を迎えて執行し、終って全員で懇親会を行なった。

なお、特別企画で11回生独自の計画による卒業後半世紀の人生記録「ドカ中の群像」を亡き恩師の霊に捧げ、先に逝った69名の友に報告し、鎮魂の書として二八〇頁の文集を発行した。
 (鈴木唯一)

●南高6回

開催日 昭和61年12月5日
 場所 市内某料亭
 出席人員 15 名

磐田市内在住者を中心に毎年開いている。活動としては会員の動向報告や、各自が経営している事業の違いはあっても、それぞれ情報の交換をし合って親睦をはかっている。特に同窓会員名簿作製には、

大きな力となって成果を得た。回を重ねるごとにお互い年令を感じ、有意義な会になるように願いながら今後も続けていきたいと思っている。また5月上旬には同好の志で、ゴルフコンペを行なった。
 (加藤 明)

●南高16回

開催日 昭和62年1月24日
 昭和62年3月7日
 場所 辻菊(磐田市)
 出席人員 15 名

第16回生は、57年1月14日磐田グランドホテルで16回生の同窓会の設立総会を持ち、役員15人を選出し、年1回の同窓会総会、各クラス(1H〜5H)単位のクラス会を持つことを決めました。

以来、60年の第59回磐南総会当番に向けて役員会、クラス会を二十数回持ち、60年8月18日、磐田グランドホテルで第59回磐田南高等学校同窓会総会を開催しました。61年度は、62年3月7日に役員会を開催、62年度の活動予定を話し合いました。
 (松本 貢)

支部活動

▼ 関東支部

関東支部は見中第一回から高校第三十二回卒業まで約千九百名の住所氏名を掌握し、関東支部独自の会員名簿を作り支部年次委員を決めて連絡網を整備しております。運営は年次委員会と互選による幹事役員会の二段構え、費用は年会費千円全会員より徴収し、独立採算にて賄われております。定例行事は年一回の支部総会と支部会報の発行配布です。昭和六十二年度の関東支部総会と懇親パーティーの日程は十一月十四日(出十三時)より、東京駅八重洲口、ホテル国際観光にて、実行委員は高校第三十一回卒の皆さんです。例年母校校長、同窓会本部長、在京恩師のご出席も含め百二十名前後の会で、母校に關係のあった方なら何方でも出席可能、飛び入りも歓迎です。支部会報は今年が第十二号で七月中旬配布、制作担当は

高校十回卒の皆さん(当番制)支部会員には各位の住所確認の必要もあり、事務局より直送しています。

事務局長 大石達朗 (見中19)

▼ 静岡支部

静岡支部は大井川以東、富士川以西に住む者、および静岡市内の勤務者を対象としていますが、会員の実数は正確に把握しておりません。

同窓会名簿や、会員相互の情報等から約三〇〇名の名簿を作成し、総会時に配布しております。この外に特別会員として国會議員一名、県議會議員四名が加入しております。

総会は毎年七月に静岡市内で開催し、五〇〜六〇名が出席しております。当日は本部から同窓会長、学校長の御出席をいただき、本部総会の内容やら他支部の近況、さらに学校の状況等詳細な報告をいただいております。

昨年の総会で役員の変更があり、支部長は柴田岳夫氏(見中一一回)から坪井章(見中一六回)に、副支部長には野

末威八(南校三回)、鈴木農夫(南校四回)の両氏が選出されました。

とかくこのような会は年令が偏り、若い人達、特に女性会員の出席が少なくなりがちです。今後は巾広く多数の参加をよびかけていきたいと考えております。

支部長 坪井 章 (見中16)

▼ 磐田支部

昨年五月十七日の支部総会で、先輩方のおさしずに従って支部のお世話をさせていただくこととなり、本年三月七日に、新任者の手による最初の懇親会を開きました。

両会とも盛会で、会場に溢れるばかりの会員の御参集をいただきました。

これには幹事の池谷先生の御苦労があった訳ですが、その最も意味を持つことに、磐田市在住者のみでなく、近隣市町村からもお出かけいただいたことです。

会後の役員反省会で、今後は磐田地域支部合同という性格を明示し、各支部役員連

支部組織の充実を

携して会を進めたり、時には会場も持ち回りにすることも考えてみたいと思うのです。それには各支部の役員諸兄をはじめ会員皆様方の御理解をいただかなければなりません。支部会員名簿作成の話も出ました。

同窓会は、今年度の重点目標を組織の充実強化におきき活動を進めているが、その一つに支部組織の活性化があります。関東・静岡・磐田の各支部は総会や懇親会を開催し年々盛会をみているが、残念ながら豊田・竜洋・福田・袋井の各支部は現在休眠状態にあります。

同窓会規約では、各支部より一名の評議員を選出するとなつているが、誰に通知してよいのか分からず困惑しております。したがってこのまま放置もできないので、本部は各地区の皆様方のご協力により支部の復活を進めたいと思っております。

最近、豊田に支部復活の動きがあり、本部はその実現に期待しています。会員へのサーブ向上に果たす支部の役割は重要であり、残る各支部の復活を願っています。

(事務局・池谷)



支部長 龍泉 公 (南高1)



時の人



大蔵省主税局長
水野 勝氏

(南高3回卒)

現在の豊田町(旧豊岡村)で生をうけ、地元の小学校から終戦直前の昭和二十年四月旧制見付中学に入学し、学制改革により六年間の中学・高校時代を過した。彼は生徒会活動などにも意欲的で会長をやり、ガリ勉タイプではなかった。授業態度は真摯であった。スポーツの方はあまり得意のように見えなかった。

務年数が一番長く、また実力もある事からきている。後者は豪快で、ユーモアも解する陽性人間、考えにも柔軟性があり、顔がいかつく肌が白いところからきている。この神様の入省にはちょっととしたエピソードがある。当時の就職試験は十月十五日からであったが、その前日に急性盲腸炎にかかり、民間の試験をすべて受けることができなく、国家公務員の試験だけを受けることになり、法律と行政の両方に合格し行政職を選んだ。もし病気になるっていなければ当時は先に内定したところに就職せねばならなかったので現在は民間で活躍していたかも知れない。

局長になった時から税制の抜本改革に取り組み、一番苦労したのが水野局長だが、一番元気がよかったのも局長で、タフな人だ、と若手の主税官僚が驚いたということである。今年の四月、講演を依頼したところ快く引きつけてくれ、後輩達に大変よい感化を与えてくれた。

(飯田孝・南高3)

回想



教頭 小和田 一郎

私は本校に昭和36年4月赴任し、45年3月まで9年間勤務した。その間、第16回生、19回生、22回生と3回の卒業生を送り出したが、多くの優れた先輩教師や、素直で意欲

的な生徒に恵まれ、教師としての研鑽を積むことができたことを心から感謝している。当時の校舎は全て木造で、図書館、講堂、雨天体操場、水泳記念館等昔のまま、かなり老朽化していたが、全体的には落着いた雰囲気であった。50mプールや防風堤が生徒自らの勤労により築かれたことも知り、感動したものである。赴任直後目にした桜の花の美しさは今でも目に焼きついている。当時は桜ももっと多かったように思う。

最初の校長は伊藤新七郎先生、教頭は松下芳夫先生で、その他の教員も優れたベテラン教師が多く、いろいろ教えていただいた。最初に受持った一年は五クラスで、二・三年は六クラスとこじんまりしていて、現在のような大規模校になろうとは夢にも思わなかった。

当時部活は陸上が中心で、昭和36年には草薙で行われた全国大会で準優勝し、また41年には熊谷真選手が百、二百で全国優勝したことが印象に残っている。

学校行事ではホームルームデイなど現在と同じだが、当時は希望者対象に富士登山が実施され、私も三回生徒を引率して参加した。修学旅行は四泊五日で、小豆島・高松・萩・秋芳洞など現在より遠方に旅行し、懐しい思い出となっている。

その後本校も37年の北館の一期工事を手始めに体育館、南館、第二体育館、はぐま会館などが建設され、また45年に理数科が設置され、今日の隆盛を見るに至ったのだが、「質実剛健」、「文武両道」、「授業第一」の精神が脈々と伝わっていることは誠に喜ばしいことである。



学校だより

●部活動の状況

【陸上部】

東海大会

★400m 井指百城 第3位

★走幅跳 竹村 祐 第5位

以上、インターハイ出場

【男子バスケットボール部】

県大会

★第一回戦 100-75 葦山

★第二回戦 62-64 浜松商

【サッカー部】

県大会

★第一回戦 0-3 静岡西

【柔道部】

県大会

★第一回戦 3-1 稲取高

★第二回戦 0-4 静岡学園

【男子バドミントン部】

県大会

★第二回戦

小沢・数野0-2(伊東)

数野0-2(静岡北)

小沢0-2(沼津東)

【水泳部】

水球 県大会優勝

★磐田南31-4 掛川西

★磐田南22-5 島田

競泳 西部大会

★杉浦規生

100m平泳 第3位

200m平泳 第5位

【剣道部】

県大会 個人戦

★藤原宏明 ベスト8

【野球部】

西部大会

★磐田南8-3 掛川工

★磐田南0-2 浜松西

【男子バレー部】

西部予選大会

★第一回戦 2-0 オイスカ

★第二回戦 0-2 池新田

★敗者復活 1-2 袋井

【卓球部】

西部予選大会 男子

★第一回戦 3-0 横須賀

★第二回戦 0-3 浜松商

同 女子

★第一回戦 2-3 江之島

【テニス部】

県大会 学校対抗 男子

★第二回戦 0-3 城ヶ崎

同 女子

★第二回戦 0-3 島田

昭和61年度・62年度 進路状況

国立大学	60年	61年	大 阪	4	4	国 学 院	4	4	名 城	1	10
北 海 道	6	4	神 戸	-	4	駒 沢	9	8	京 都 外 語	2	3
東 北	8	7	奈 良 女 子	4	3	実 践 女 子	4	3	京 都 女 子	11	2
山 形	2	3	島 根	1	3	芝 浦 工 業	4	20	同 志 社	9	7
茨 城	1	5	広 島	2	3	上 智	7	2	立 命 館	19	27
筑 波	5	11	静 岡	45	56	成 蹊	6	3	関 西	8	13
宇 都 宮	-	4	他	12	18	成 城	3	3	関 西 学 院	3	2
埼 玉	-	6	合 計	135	236	専 修	7	15	他	66	73
千 葉	3	9				大 東 文 化	6	3	合 計	425	521
東 京	3	4	公立大学	60年	61年	中 央	16	26			
東京医科歯科	-	1	高 崎 経 済	2	4	東 海	4	2	短 (国公立)	11	11
東京外語	1	1	東 京 都 立	2	3	東 京 経 済	5	5	大 (私立)	50	37
東京学芸	-	2	都立科学技術	-	10	東 京 女 子	5	3			
東京芸術	-	1	横 浜 市 立	4	1	東 京 電 機	4	12	専 門 学 校	4	1
東京工業	-	3	都 留 文 科	2	4	東 京 理 科	20	31			
東京農工	1	1	名 古 屋 市 立	1	1	東 洋	6	5	就 職	4	1
東京水産	1	1	静 岡 県 立	10	19	日 本	25	32			
お茶の水	-	2	他	1	4	日 本 女 子	5	5	進 学 準 備 中	145	101
電気通信	-	4	合 計	22	46	法 政	15	28			
一 橋	-	3				武 蔵 工 業	14	11	卒 業 生 総 数	370	370
横 浜 国 立	8	14	私立大学	60年	61年	明 治	31	34			
金 沢	5	13	独 協	1	5	明 治 学 院	8	12	(注)昭和62年度大学入試 で、国公立大学の合格者 が大幅に増加している原 因の最大のものは、複数 受験が可能になったこと である。また、合格者数 は、現役・浪人の合計数 である。		
山 梨	-	7	文 教	3	4	立 教	10	13			
信 州	3	7	千 葉 工 業	1	3	早 稲 田	25	19			
浜 松 医 科	5	6	千 葉 商 科	-	4	神 奈 川	5	13			
名 古 屋	6	13	青 山 学 院	14	9	金 沢 工 業	1	4			
愛 知 教 育	-	2	北 里	3	2	常 葉 学 園	2	3			
名 古 屋 工 業	3	6	共 立 女 子	3	5	愛 知	5	5			
三 重	2	1	慶 応 義 塾	15	13	中 京	2	6			
京 都	4	4	工 学 院	4	9	南 山	4	-			

事務局だより

▼会務報告

- 8月17日 第60回記念同窓会
総会 慰霊祭 同窓会だより第8号発行
- 11月8日 関東支部総会
- 11月10日 役員会 尾崎教育振興基金募金最終報告会
- 2月21日 役員会 同窓会だより編集委員会
- 3月7日 磐田支部総会
磐田市福祉センターにて
- 4月5日 見12回生50周年記念植樹と慰霊祭 同窓会館
- 4月12日 県会議員選挙 同窓生6人当選
- 4月23日 後援会監査会
- 4月27日 後援会理事會
- 5月15日 後援会PTA総会
- 5月30日 会計監査委員会
- 6月6日 同窓会役員会 高18回生総会当番年次と打合
- 7月11日 役員推薦委員会
- 7月10日 静岡支部総会
- 7月11日 評議員会
- 8月16日 同窓会総会慰霊祭
会務報告・会計・総会関係

▼今年度の当番年次

- 卒業10年会 高28回
新役員選出
- 卒業20年会 高18回
総会当番年次
- 卒業30年会 高9回
慰霊祭当番
- 卒業40年会 中21回
資金作り
- 卒業50年会 中12回
記念植樹等

▼事務局より

60年度よりお願いしました尾崎教育振興基金への賛助募金につきましては、昨年の第8号同窓会だよりにお礼とご報告を申し上げました。その後、尾崎先生ご遺族より後援会へご寄付いただきました。土地の処分も終り、最終的には、同窓会の皆様方より約千六百万円、土地処分代約二千七百万円、伊藤武後援会長の藍綬褒賞授賞記念として百万円等、合せて基金総額四千六百四〇万円となりました。

今後、磐田南高校の教育活動に一層の充実と発展に寄与できます事と存じます。関係の皆様にも厚くお礼を申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程

お願い致します。

また今春4月の県議会議員選挙におきましては、本校同窓会の方々の活躍により、同窓生6人の方がご当選しました。大変心強く感じました。心からお祝い申し上げます。

今回第9号の同窓会だよりも編集委員を構成し、より充実した紙面を皆様方にお届けするよう努力しています。将来はなるだけ多くの方々にお送りするようにしたいと思います。ですが、今回は同級会や地区別会合の折など、お知らせできれば、本部より送りますので是非ご利用下さい。

●編集後記

より内容のあるものをお願いしながらも、変りばえのないものになってしまいました。

今回は編集委員のご協力を得て、皆様のご期待に添いたいと思います。

多忙の中、原稿をお寄せ下さった方々に厚くお礼申し上げます。 幹事

慶弔内祝砂糖専門

折井商店

折井孝一郎(南高1回卒)

磐田市見付宿町(中川橋際) TEL05383-2-2739

株式会社 磐田給食センター

取締役社長 鷹野三平(見中8回卒)

磐田市中川町 5085-4 TEL 05383-2-9201

株式会社 遠州日石

本社 浜松市常盤町2番地2

TEL0534-54-7431

取締役社長 渡辺晁啓(見中13回卒)

常務取締役 内海雄(南高11回卒)

富士協同運輸株式会社

取締役社長 坪井豊治(見中11回卒)

〒431-04 湖西市鷺津 TEL05357-5-0370

日本の情緒をこめて

日本庭園

醍醐荘

寺田彰慶(南高21回卒)

磐田市浜部(国道150号線沿)

TEL05383-5-5225(代)

鮎のつかみ取り

天竜市最大のファミリーテント村・緑と清流が一級品

遠州阿多古路 石神の里

天竜市石神 1455-2 TEL 05392-8-0311(代)

石神観光役員 吉林宏(見中21回卒)